



名古屋市長持寺住職川口高風様ととも
（龍谷院客殿にて）

龍谷院
たより

発行所 龍谷院
愛知県岡崎市城部
通町下町野呂1300
TEL.029-289-3108
FAX.029-289-3025
編集人 副部 義光

晋山式特集号

ごあいさつ

新年おめでとくございます。
平成二十二年庚寅の年を迎えました。

昨年は当山四十四世の晋山式にはお檀家の皆様、千葉龍泉寺役員様、茨城町慈雲寺役員様には大変お世話になりました。改めて感謝申し上げます。

法要には大勢の方々のお力添えを頂き、盛大に円成出来ました。このことを感謝しつつ、安堵の日々を送っています。

今年も寅年です。「虎は千里行つて、千里帰る」とよく言われます。虎のように元氣な威勢のある一年にしたいところです。

日本人の多くは大晦日にお寺で除夜の鐘を打つたり聞いたりして一年を振り返ります。元日になりますと神社へ初詣に出かれます。一神教の国から見ると不思議に思われます。

日本人は信仰心が無いといわれながらも、全国の神社仏閣を参詣する人は人口の七割約九千万人いるそうです。これは驚きです。

干支の十二支を漢字で書きますと動物の干支と違います。

職 園部 義光

なせでしょう、と言ってお話です。

たとえば、「寅」と「虎」、「丑」と「牛」、「子」と「鼠」のように通っています。これは中国から伝えられたもの、「子」とは中国語の意味は「種」の意味で、「丑」は「結ぶ」という意味、「寅」は「のびる」とか「のぼす」という意味です。

十二ヶ月を意味し、五穀豊稔を意味しているように思います。

日本伝来して爾来、覚えやすいようにと言うことで、動物と結びつけて覚えたとする説です。興味ある話を聞いたように思います。

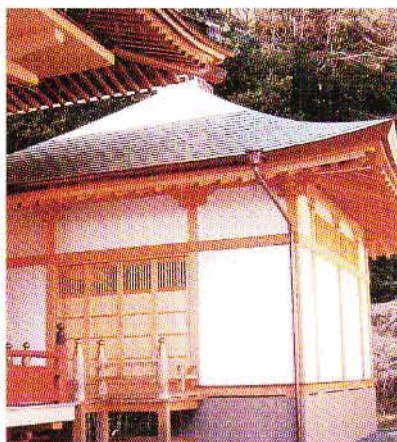
今年の五月に大雄山最乗寺に於いて、開山了庵慧明禪師六百回大遠忌法要の導師を務めることとなりました。つきましては、お檀家の方二十名ほどを参拝に同行お願いしたいと思っております。是非ご参加ください。詳細につきましては募集要項をご覧ください。

皆様にとりまして良い一年が過ごせますようご祈念いたします。今年も宜しくお願ひ申し上げます。

龍谷院四十四世 晋山式行わる

平成二十一年十月二十三、二十四日の両日に亘り、龍谷院四十四世住職耀月義光和尚の晋山式が、大本山永平寺の御専使様をはじめ、大本山総持寺御専使様、曹洞宗茨城県宗務所長様、そして県内外八

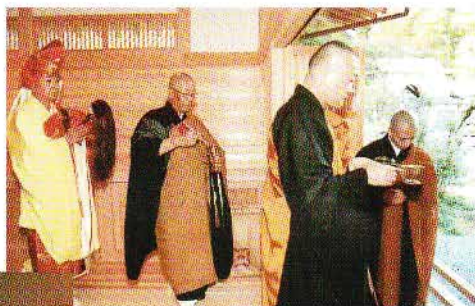
十余ヶ寺の方丈様、総代、世話人、梅花譚の皆様、さらに一般檀信徒など多数の参列のもと、厳粛に執り行われました。以下、順を追って、式典の様子をお知らせ致します。



位牌堂

先ず最初に、二十三日午後二時半から祇園寺住職小原宣弘大方丈を導師として、位牌堂落慶法要が執り行われました。位

一、位牌堂 落慶式



浄道場(清めの式)



上香献湯菓茶(茶菓子を供える)

牌堂建設はこの度の晋山式の記念事業としましてお檀家の浄財を仰いで建設致しました。大きさは三間四方九坪の総檜造りです。内陣は約六百位の位牌が納めることが出来ます。尚、位牌の集集は後日、発表致しますのでしばらくお待ち下さい。

二、開山忌法要

この晋山式を修行するに当り、当山開山秀峰宗岱大和尚の五百回大遠忌報恩供養を務めました。導師は愛知県名古屋法持寺ご住職川口高風老師に特別お願いいたしました。

川口老師は愛知学院大学の教授でもあります。遠路お越しいただき、ご挨拶匹堂と言ってお役目と二役を務めていただきました。



導師入堂

三、首座 入寺式

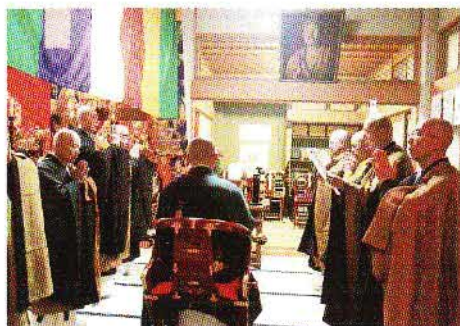
この儀式は首座（首座へ）修行僧の第一番の重要な役という役日の修行僧が住職の命（いのち）によってその役日の位（ゐ）に着く儀式です。この度は、千葉県香取市竜泉寺の増田芳裕が首座を務めました。



首座就位

四、土地堂 念誦

龍谷院の土地堂神に対しこの晋山式が無事終了できますようにご祈願申し上げます。導師は新任住職が務めました。



念誦

五、本則配 役行茶

この晋山式の法要にあたり、それぞれの御寺院さまに配役が発表され、また各役員（ごやくいん）の配役も発表されました。その後、明日の法座（ほふざ）（首座の法戦式）に行われる問答について提唱が川口西堂老師より行われました。そして、参加者全員でお祝いのお茶を飲みます。



制中配役

六、晋山式



新命和尚安下処

去る十月二十四日(晋山式当日)午前七時安下処(上阿野沢、川野辺博様宅)で、新命住職が川野辺家の先祖供養の内誦経を務めましたあとに、それぞれの役目のお坊さんと役員の皆様、梅花講員の皆様、稚児行列に参加した皆様と大勢の方々が行列をつくって龍谷院へ向かって出発しました。



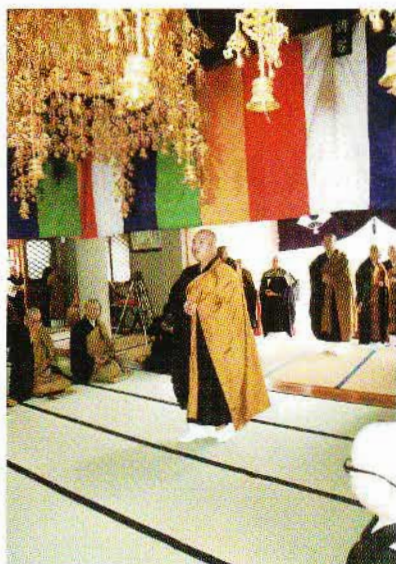
山門法語

山門の前で、入山の志(決意)等を読み上げます。これを山門法語といえます。



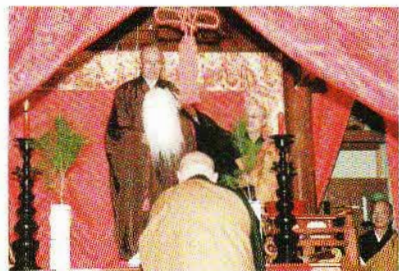
稚児行列

七、晋山開堂



問答

新命和尚が須弥壇上に登って問答をする儀式です。その前にご本尊さまを始め道元禪師、登山禪師、歴代の住職そして自分の本師栄重宗天和尚への報恩のこぼを述べてから、その後、問答の開始となります。



須弥壇上の新命住職

八、法戦式

「法戦式その後・・・」

首座 増田 芳裕

本結制において、不遜ながらも首座を務めさせていただきました。法要及びその準備にあたっては、多くの皆様よりご指導、ご鞭撻をいただいたおかげもあって、無事に終えることができました。この場を借りて御礼申し上げます。

さて、この儀式を通して改めて儀礼の力というものを実感しました。少し思うところがありますので、儀礼について書かせていただきます。

人生においては、「冠婚葬祭」という主な儀礼があります。そ



法戦式

れらは時代とともに変遷してきました。そして昨今の社会状況を見ると、何かと生きる目的を見出しにくい世の中になったように思われます。また同時に儀式の簡略化が進んでおります。この状況下では僧侶の希薄化や宗教の衰退を免れることはできないでしょう。この儀礼の本来的意味は何なのか、何故今日に至るまで発展を遂げてきたのか等、全く知識や関心も持たずに生きていくことは、ある意味において不幸な事態であるといえるのではないのでしょうか。昔は現代と比べて、お金もモノもなかった時代であったと聞いております。そのような時代に、人々はどうのようにして日常を豊かなものとしたのか、そのお知恵を拝借し、その上で布教に役立てたいと思っております。

これら布教の実践にはまだまだ時間がかかりますが、じっくり勉強を重ねたいと思っております。

九、式典

式典に当たって、大本山永平寺貫首福山諦法禪師を始め、大本山総持守甚曾大道吳仙禪師、茨城県宗務所長などより祝辞をいただきました。その後役員の方々へ住職より感謝状が渡されました。



祝 辞

祝 詞

當山貫首

園部義光師

本日のお成をとり、普山結制の式典と承け、誠に慶祝の至り、堪えざらん惟より普山開堂は寺門の大興あり、九司安居の結縁は佛祖の軌範とす、も我々宗門の宗者として、これに依り興隆とす文化とに依り興隆とす、實は普義祖のまじりて、綿密に修行し、身地に教化により、普く無縁大悲の法門を布き、商しく、平法白實の心法を弘め、日檀信使れり、と、地獄社合を要請に、祝詞致し、す、祈念に、祝詞致し、す、
平成二十二年 丁月廿四日
貫首 園部義光
永平寺貫首 福山諦法

永平寺よりの祝辞

感謝状授与された方々

- 桐原 務 様
- 三村 保 一 様
- 加藤 盛 次 様
- 青柳 博 男 様
- 川野 博 博 様
- 川野 澄 博 様
- 宇留野 景 樹 様

祝辞

晋山式実行委員長総代 桐原 務
 当山四十四代住職の晋山式に
 当たり、謹んでお祝いのことは
 を申し上げます。

本日の晋山結制式に当たり、「西堂」という役をお勤めいただきました名古屋市法持寺住職・川口高風方丈様に、先ずもって御礼を申し上げます。

また、両大本山御専使の、結城市・乗田寺様、千紫県・長興院様、そして茨城県茨務所長様、さらに教区ご寺院様、県内外のご寺院様のご協力、ご尽力によ



実行委員長の祝辞

り、晋山式が盛大かつ厳肅に執り行われますことは、私ども檀信徒にとりまして、この上もない喜びであります。数十年に一度といわれるこのような晋山式法要の場に参加できました仏縁を、ありがたく思う次第です。

義光和尚様は、四年前、ご先代住職が遷化される以前から、二十一年間に亘って副住職として、ご先代の袖佐役を務めて参られました。長い間の念願だった客殿建設に始まり、観音堂の建設に至るまで、寺院の興隆のため日夜ご尽力されました。

この度、晋山式を執り行うのに当たり、一年前から「晋山式実行委員会」を発足させ、位牌堂の建設と合わせて準備を進めて参りました。ここに、位牌堂の落慶式も執り行われたことは、私ども檀信徒の大きな喜びであります。

遙かなご先祖から連綿と続いてきた禪寺龍谷院の新命義光和尚様が、今後、檀信徒教化にご精進され、ますます寺院を発展されますことを、ご祈念申し上げます。

るとともに、この菩提寺が子々孫々へ伝えられることを心より念願するものです。

最後になりましたが、本日の法要に至るまで、物心両面からのご支援をいただきました檀信徒の皆様にご感謝申し上げます。ともに、ご健康・ご多幸をお祈り申し上げます。

世紀の大晋山式典に参加して

城里町北方 関根 久樹
 した。

晋山式を開催するにあたり、実行委員会、世話人会の度々の会議があり、住職から説明を聞きました。一年前から計画された記念事業として、位牌堂建設並びに晋山式法要費の問題がありました。檀信徒の浄財を仰ぎ、計画は着々と進みました。

開催日、十月二十三日、二十四日は天候にも恵まれて、式典は挙行されました。大本山永平寺、名古屋市法持寺、水戸市祇園寺の高僧八十名の御臨席を賜り、式典は厳肅、盛大に開催されま

ました。位牌堂落慶式、秀峰宗岱大和尚開山忌、首座入寺式、檀信徒総供養が執り行われました。稚児行列は少子化の今日であります。可哀らしい稚児行列に参加され、将来寺院とともに立派に成長されると信じております。

菩提寺、檀信徒の結束の絆により、世紀の大行事が終わりおめでとうございました。皆さまの御隆盛、御多幸を御祈念申し上げます。



友友たち

古今の思い

城里町孫根 三村保次

平成二十二年度を皆様と一緒に迎え出しましたこと、心よりお喜び申し上げます。

昨年は晋山式と言う考えもしなかった事に遭遇したのですが、二年と言う準備期間に、役員始め檀家の皆様には献身的に御協力頂き、賑やかにそして式が成功し、瑞雲山龍谷院第四十四世新命住職蘭部義光和尚誕生、その名を広く知らしめる事ができました事、この上ない喜びで御座居ます。益々のご発展をお祈り申し上げます。

さて、折角の紙上ですのでお借りして御礼のご挨拶をさせていただきます。

総代をお引受してから客殿の新築に始まり、境内の整備、

観音堂の新築など色々な事が御座居ました。そして昨年晋山式。此の間十数周年に亘り、

檀家の皆様方のご指導ご協力に依り、総代の職を続けて行つて来ましたが、体力的に限界と考え、昨年十二月をもつて総代の任務を辞任する事になりました。長い間檀家の皆様にご協力ご指導いただきました事に深く感謝申し上げます。礼のご挨拶といたします。紙面も限られておりますので簡単にしてお許し下さい。



安下処にて記念写真

晋山式に参加できたこと

龍谷院梅花講 加藤木一子

「ドンドン、ドドン」花火を合図に、晋山式の会場となる龍谷院に向う稚児行列が出發しました。秋空の朝、安下処となった家からお寺まで、約八百メートルの道のりを、旗を先頭に、稚児さん、お坊様、私達梅花講員、主役の御住職、

御詠歌をお唱えしながらの行列です。この日のためにと、歩きながらの立行の稽古を重ねてきましたが、成果のほどはさだかではありません。道中は厳かな中にもわきあいあいと楽しい行列となりました。

お寺に到着してからも沢山の行事が執り行なわれ、その中でも印象に残ったのは、住職としての力量を問われると

いうお坊様方との問答です。住職が本堂中央の高い壇上上がり、数人のお坊様からの難問に即座に返答する行です。

難しい言葉で、大勢の人の前で堂々と立派に披露する姿に、改めて感動し尊敬しました。

構想から準備、実行まで足かけ三年もかかる、住職として一生に一度の晋山式という大事業の一端に携われたことは、大変幸せなことだと感じました。



稚児行列

龍谷院晋山式並びに位牌堂建設収支報告書

平成21年11月29日

収入の部

| | |
|--|---------------------------|
| 寄付金等 JA水戸かつら支店扱い 307件 同上 利息 | 16,370,000円 1,888円 |
| ゆうちょ銀行 野口局扱い(304)274件 (手数料89,390円)11,575,000円 服各院追加寄付金 | 11,485,610円 1,818,400円 |
| 合 計 | 29,675,896円 |

支出の部

| | |
|---------------------------------------|-------------------------|
| 位牌堂建設費 設計管理費(中建築設計) 建築工事費(飯具建設) | 945,000円 15,094,000円 |
| 晋山式関係費 | 13,636,896円 |
| 合 計 | 29,675,896円 |

収入29,675,896円-支出29,675,896円=0(残金)
以上をご報告いたします。

平成21年12月14日
実行委員会 委員長 柄原 務
会 員 加藤 篤一
会 計 青柳 勇
会 計 川崎 多喜男

本会計につき、去る11月29日領収書、預金通帳、帳簿等を照合監査いたしましたところ、適正であることを認めます。

監 査 川野辺 博
監 査 宇留野 崇徳

晋山式寄付感謝録

平成二十一年十月二十四日

| | | |
|------------------|---------------|----------|
| 一 庭の簡易舗装修理 | 一 座布団 百枚 | 兵庫 越賀 公道 |
| 一 祝い金 金一封 | 一 遠山文様 総子 | 大阪 関 宗園 |
| 一 総代 桐原 務 様 | 一 金襴 総子 | |
| 一 千葉 竜泉寺 様 | 一 名古屋 梅金商店 様 | |
| 一 龍文様御水引 | 一 祝い金 金一封 | |
| 一 高部 峯元 様 | 一 晋山式記念品 数珠 | |
| 一 増田 久見 様 | 一 京都 木崎旭法衣店 様 | |
| 一 増田 下代美 様 | 一 晋山式記念品 掛け軸 | |
| 一 オケキ仏具社長 渡辺 肇 様 | 一 日立 鏡 徳 寺 様 | |
| 一 祝い金 金一封 | 一 晋山式記念品 忽 | |
| 一 刺繍袈裟 一幅 | 一 晋山式記念品 忽 | |
| 一 静岡 岡田 正道 様 | 一 桜川 洞 源 寺 様 | |
| 一 兵庫 西村 眞典 様 | | |

『編集後記』

一生に一度の晋山式はまさに絵巻物を見る思いでした。
今回は晋山式持集号として、一連の式典のようすを写真集の形でお知らせしました。その中で、式典に参加しての感想文を書せてくださった方々に心からお礼を申し上げます。
写真説明の用語がむずかしいと思いますが、よく文字を見てみると、なんとなくわかるのではないかと思えます。
もうすぐ、春が訪れます。皆様お元氣にお過ごしください。

編集委員

杉山 三千雄

大雄山最乗寺御開山

了庵慧明禪師六百回大遠忌龍谷院住職焼香師参拝団

～～～鎌倉・箱根、大雄山最乗寺～～～

この度、了庵慧明禪師六百回忌の導師を最乗寺より奉請され、つとめることになりました。このご縁をいただいた記念旅行です。皆様の参加をお待ち申し上げます。 住職

- ◎期 間 平成22年5月17日(月)～19日(水)、2泊3日
- ◎旅行費用 ¥39,500円(交通費・宿泊料・その他含む)
鎌倉最乗寺一人当り18,500円補助します。(58,000円の内)
- ◎申 込 金 ¥10,000円(旅費に充当)
- ◎募集人員 20名(2月中旬/切、又は定員になり次第/切)

第4回 龍谷院ゴルフ大会開催

～ 参加者募集中 ～

開催予定日

平成22年

5月13日(木)

城里ゴルフクラブ

参加費

3,000円

※プレー費は個人負担 納め切り4月末

※豪華賞品の用意あり

※ゴルフ場が変更になる場合もありますのでご了承下さい。

